



暮らしの歴史が香る街。
奥深い歴史が香る街。

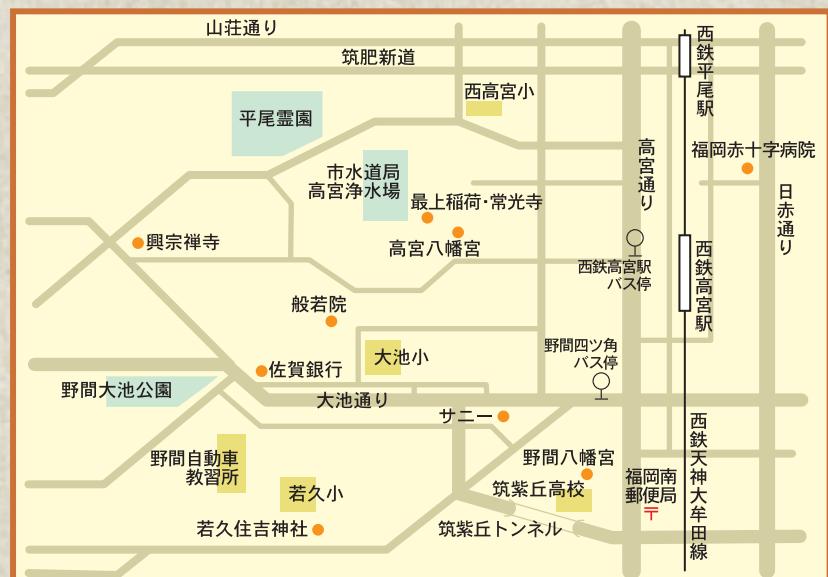
歩く あそぶ 福岡



歩くあそぶまち発見

□福岡空港から

- 【市営地下鉄】「福岡空港駅」より福岡市営地下鉄空港線「天神駅」(約11分)
↓乗換(徒歩 約5分)
- 【西鉄電車】「西鉄福岡駅」より西鉄天神大牟田線「高宮駅」(約5分) 降車
- JR博多駅から
- 【市営地下鉄】「博多駅」より福岡市営地下鉄空港線「天神駅」(約5分)
↓乗換(徒歩 約5分)
- 【西鉄電車】「西鉄福岡駅」より西鉄天神大牟田線「高宮駅」(約5分) 降車



人々の心の真ん中で、
この街の歴史はずっと息づいています。



① 興宗禪寺

寺塚の住宅街にある禅寺。元禄11年(1696年)、曹洞宗隨一の高僧・辯山道白禅師を迎えて開山されました。境内に多くの石佛が祀られ、広く市民に親しまれています。



② 古墳穴観音

石段の上に古い横穴式古墳の石室があります。奥の壁には室町時代に彫られたといわれる阿弥陀如来、観音、勢至菩薩の3体の仏像があり、親しみを込めて「穴観音」と呼ばれています。



③ 福岡義士祭

赤穂四十七士の墓が建立されたことを機に、地元の有志が発起人となり始められた祭りです。戦後一時中断された祭りも昭和28年に復活。近年は2,000人を超える多くの参拝者で賑わっています。



④ 赤穂四十七士の墓

昭和10年、福岡の篤志家・木原善太郎氏が私財を投じ、東京高輪にある泉岳寺の赤穂四十七士の墓をそのまま再現したもの。暗い世相の中、市民の志気を高めるために赤穂義士の精神を伝えようとしたといわれています。



⑤ 高宮八幡宮

御祭神は應神天皇、神功皇后、玉依姫命で、天智天皇が磐瀬の宮に行幸された折に祀られたといわれています。その後、慶長7年に現在の場所に鎮座され、今もなお高宮、大池地区の氏神様として信仰を集めています。平成19年秋に、ご神殿が新築されました。



⑥ 野間八幡宮

木立に囲まれた閑静な境内には菅原道真公を祀る玉橋天満宮もあり、鎮守の神として住民から厚い信仰を集めています。また境内には地域住民の交流の場として親しまれている野間会館もあります。



⑦ 最上稻荷・常光寺

高宮遊歩道沿いにあり、神仏が共存する寺院です。岡山の最上稻荷の分霊が安置され、奥の院には鴻巣山の守護神・安高天玉が祀られています。境内は昔、筑紫遊園地とも言い桜の名所であったらしく、今も数本の老樹が名残をとどめています。



⑨ 野間大池公園

ジョギングコースなどが整備された運動公園。市民スポーツが盛んです。ツクシオオカヤツリなどの珍しい植物とも出会えます。また春には桜の名所として見事な桜並木が続きます。



高宮エリア

人、暮らしが歴史が素敵なハイモニーを奏でる街。

この街は、人と暮らしと歴史の数々がちょうどいい距離感で交流する街なのです。



木の花ガルテン
大分県大山町の自然の味覚を中心くまで楽しめるバイクング・レストラン。その時季に採れた旬の野菜や山菜のメニューが毎日70~80種類並びます。

野間大池のモニュメント
清水、干隈線野間四つ角~野間大池間の道路の拡幅、電線地中化を計画どおり完成した記念として建立された(平成11年)、3つの石柱で囲まれた時計台のモニュメント。軽やかな鐘の音とともにこの地域に時を告げる音のランドマークでもあります。

若久住吉神社

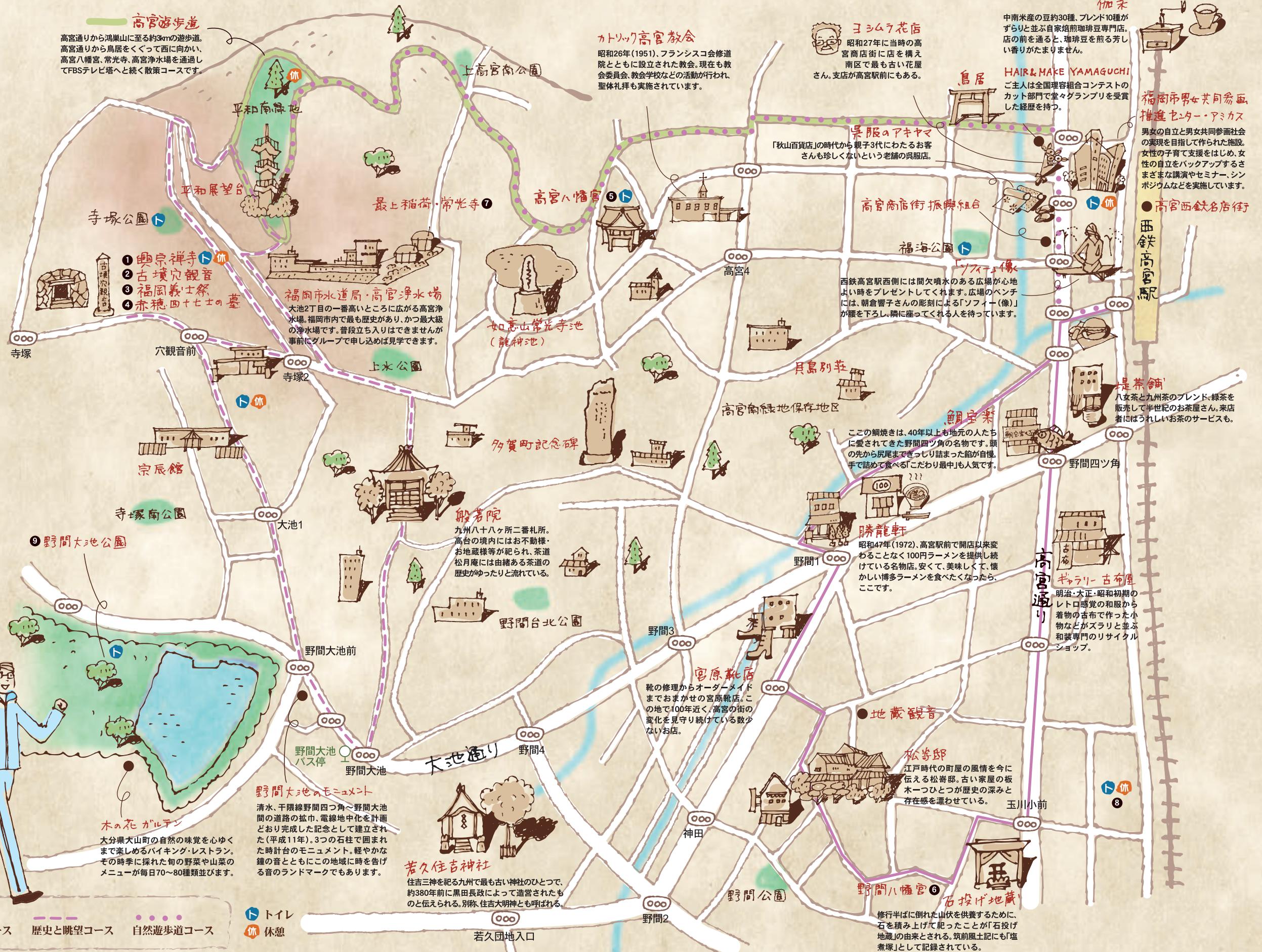
住吉三神を祀る九州で最も古い神社のひとつで、約380年前に黒田長政によって造営されたものと伝えられる。別称、住吉大明神とも呼ばれる。

高宮・野間商店街コース

歴史と眺望コース

自然遊歩道コース

トイレ
休憩



伽樂

中南米産の豆約30種、ブレンド10種が
ずらりと並ぶ自家焙煎珈琲豆専門店。
店の前を通ると、珈琲豆を煎る芳
い香りがたまりません。

HAIR & MAKE YAMAGUCHI
ご主人は全国理容組合コンテストの
カット部門で堂々グランプリを受賞
した経験を持つ。

福岡市男女共同参画
推進センター・アミカス

男女の自立と男女共同参画社会の
実現を目指して作られた施設。
女性の子育て支援をはじめ、女性の
自立をバックアップするさまざまな講演やセミナー、シン
ポジウムなどを実施しています。

●高宮西鉄名店街

西鉄高宮駅

提茶舗
八女茶と九州茶のブレンド、緑茶を
販売して半世紀のお茶屋さん。来店
者にはうれしいお茶のサービスも。

ギャラリー古布屋
明治・大正・昭和初期の
レトロ感覚の和服から
着物の古布で作った小
物などがズラリと並ぶ
和装専門のリサイクル
ショップ。

高宮通り
江戸時代の町屋の風情を今に
伝える松崎邸。古い家屋の板
木一つひとつが歴史の深みと
存在感を漂わせている。

玉川小前
修行半ばに倒れた山伏を供養するために、
石を積み上げて祀ったことが「石投げ
地蔵」の由来とされる。筑前風土記にも「塩
塚」として記録されている。